

■ はじめに	1
■ CEOメッセージ	2
■ CSR対談	5
■ 日産のCSR	10
● 日産のCSRの発展プロセス	11
● 日産CSR重点9分野	17
● 日産CSRスコアカード	20
● ステークホルダー エンゲージメント2006	24
■ 事業活動報告・コーポレートガバナンス	25
● 「日産バリューアップ」進捗状況・ 2006年度決算概況	26
● コーポレートガバナンス	29
■ ステークホルダーへの価値の向上	36
● お客様のために	37
● 株主・投資家の皆さまとともに	44
● 社員とともに	46
● ビジネスパートナーとともに	54
● 社会とともに	60
■ 地球環境の保全	71
■ 安全への配慮	100
■ 社員一人ひとりが考えるサステナビリティ	110
● パフォーマンスデータ	116
● 事業等のリスク	118
● 第三者意見書	119

事業活動報告・コーポレートガバナンス

X-TRAIL



Performance and Corporate Governance

長期的な利益ある成長を目指して



引き続きコミットメント完遂に全力を尽くす

中期経営計画「日産バリューアップ」の進捗状況

日産の中期経営計画である「日産バリューアップ」には、3つのキー・コミットメントがあります。

1. 2005年度から2007年度にかけ、グローバル自動車業界のトップレベルに売上高営業利益率を維持する
2. 2008年度に販売台数420万台を達成する
3. 3年間平均で投下資本利益率20%を確保する

2006年度の実績は日産バリューアップの目標達成に貢献しませんでした。しかし、日産には事業計画のコミットメントを実現する潜在力があり、引き続きコミットメント完遂に全力を尽くします。これに伴い、日産バリューアップのすべてのコミットメント達成時期を1年延長することとしました。

このような中で、この1年間で、日産バリューアップの中心となる4つのブレークスルーは確実に前進を遂げました。

1. インフィニティを世界で名立たるラグジュアリー・ブランドにする

2006年には、インフィニティをロシアに展開しました。今後、グローバル展開を加速し、2007年には中国とウクライナ、2008年には西欧全域に拡大していきます。

2. 小型商用車のプレゼンスをグローバルに強化する

小型商用車のグローバル販売台数は、日産バリューアップ開始以降57%伸び、2006年度には49万台に達しました。さらに、8.0%を超える売上高営業利益率を達成しました。

3. リーディング・コンペティティブ・カントリー（競争力のある国々）からの部品、機械、設備、ベンダーツーリング（取引先の型、治工具）、サービスの新たな調達ソースを確立する

中国、アセアン、メキシコ、東欧などを中心とする競争力のある国々からのグローバル調達額は、2005年度には12%でしたが、2006年度には15%に達しました。



■ はじめに	1
■ CEOメッセージ	2
■ CSR対談	5
■ 日産のCSR	10
● 日産のCSRの発展プロセス	11
● 日産CSR重点9分野	17
● 日産CSRスコアカード	20
● ステークホルダー エンゲージメント2006	24
■ 事業活動報告・コーポレートガバナンス	25
● 「日産バリューアップ」進捗状況・ 2006年度決算概況	26
● コーポレートガバナンス	29
■ ステークホルダーへの価値の向上	36
● お客さまのために	37
● 株主・投資家の皆さまとともに	44
● 社員とともに	46
● ビジネスパートナーとともに	54
● 社会とともに	60
■ 地球環境の保全	71
■ 安全への配慮	100
■ 社員一人ひとりが考えるサステナビリティ	110
● パフォーマンスデータ	116
● 事業等のリスク	118
● 第三者意見書	119

- はじめに 1
- CEOメッセージ 2
- CSR対談 5
- 日産のCSR 10
 - 日産のCSRの発展プロセス 11
 - 日産CSR重点9分野 17
 - 日産CSRスコアカード 20
 - ステークホルダー エンゲージメント2006 24
- 事業活動報告・コーポレートガバナンス 25
 - 「日産バリューアップ」進捗状況・
2006年度決算概況 26
 - コーポレートガバナンス 29
 - ステークホルダーへの価値の向上 36
 - お客さまのために 37
 - 株主・投資家の皆さまとともに 44
 - 社員とともに 46
 - ビジネスパートナーとともに 54
 - 社会とともに 60
 - 地球環境の保全 71
 - 安全への配慮 100
 - 社員一人ひとりが考えるサステナビリティ 110
 - パフォーマンスデータ 116
 - 事業等のリスク 118
 - 第三者意見書 119

4. 新興国での地理的拡大を強化する

ブラジルや中国における事業への追加投資に加え、ロシアでは組立工場建設のための投資を行ってきました。また、インドではルノーとともにマヒンドラ・マヒンドラと提携し、3社共同で新工場を建設します。

● 連結営業利益率

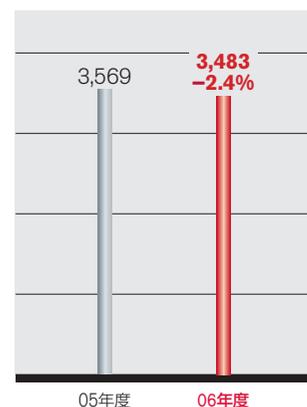
2005年	9.2%
2006年	7.4%

● 投下資本利益率:ROIC (自動車事業)

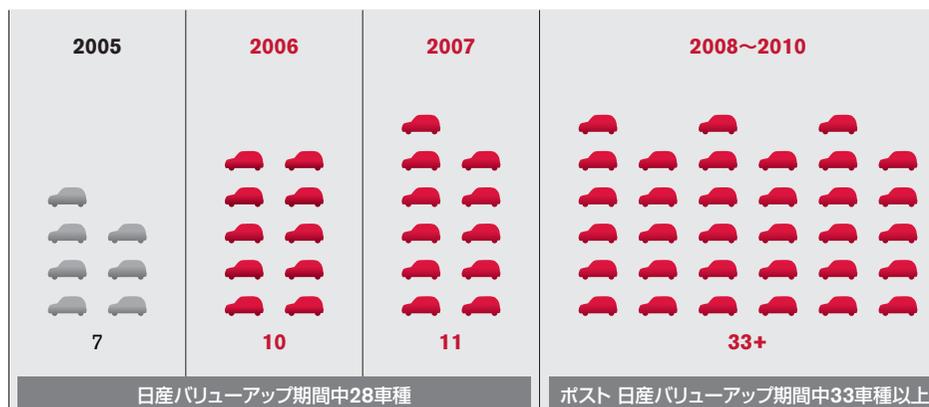
2005年	19.4%
2006年	15.3%

$$\text{ROIC (自動車事業)} = \frac{\text{連結営業利益}}{\text{(固定資産+運転資金)}}$$

● グローバル販売台数(千台)



● グローバル新型車投入計画:2005~2010年度(車種)



2006年度 決算概況

2006年度のグローバル販売台数は348万3,000台、前年比2.4%減となりました。2006年度はグローバルで10車種の新型車を投入しましたが、複数の主力商品を含め、ひとつの例外を除いて、発売時期は下期に集中しました。この新型車とは米国での最量販車種である新型「アルティマ」、インフィニティでもっとも販売に寄与している新型「G35」、そして中国を皮切りに投入していく新しいグローバル・カー「リヴィナ・ジェニス」を含みます。これらはいずれも好調なスタートを切ったものの、年度の後半に投入されたため、通期のグローバルな台数増には至りませんでした。

はじめに	1
CEOメッセージ	2
CSR対談	5
日産のCSR	10
●日産のCSRの発展プロセス	11
●日産CSR重点9分野	17
●日産CSRスコアカード	20
●ステークホルダー エンゲージメント2006	24
事業活動報告・コーポレートガバナンス	25
●「日産バリューアップ」進捗状況・ 2006年度決算概況	26
●コーポレートガバナンス	29
ステークホルダーへの価値の向上	36
●お客さまのために	37
●株主・投資家の皆さまとともに	44
●社員とともに	46
●ビジネスパートナーとともに	54
●社会とともに	60
地球環境の保全	71
安全への配慮	100
社員一人ひとりが考えるサステナビリティ	110
●パフォーマンスデータ	116
●事業等のリスク	118
●第三者意見書	119

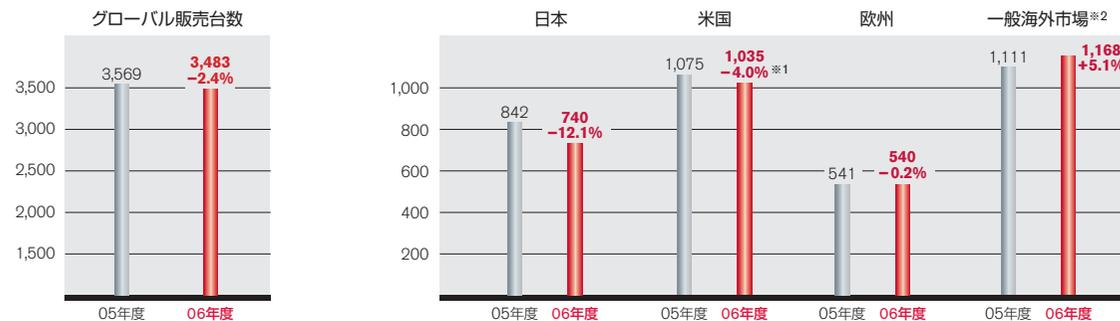
透明性と一貫性を確保するため、従来暦年ベースを採用していた子会社である欧州やメキシコなどを、日産自動車の会計期間である3月末決算の会計年度に統一しました。したがって、2006年度は暦年ベースを採用していた会社の2007年1月から3月までの実績を第5四半期として織り込みました。これにより、2006年度の売上高は7,676億円、営業利益は214億円、そして当期純利益は116億円でそれぞれ増加しています。その結果、連結売上高は10兆4,686億円、連結営業利益は7,769億円、そして連結売上高営業利益率は7.4%となりました。

●2006年度 財務実績(億円)

	2005年度	2006年度	差異
連結売上高	94,283	104,686	+11.0%
連結営業利益	8,718	7,769	-10.9%
連結売上高営業利益率	9.2%	7.4%	-1.8 ポイント
営業外損益	-259	-158	+101
経常利益	8,459	7,611	-10.0%
特別損益	-369	-637	-268
税金等調整前当期純利益	8,090	6,974	-13.8%
法人税等調整額	-2,544	-2,121	+423
実効税率	31.4%	30.4%	-1.0 ポイント
少数株主利益	-365	-245	+120
当期純利益	5,181	4,608	-11.1%
設備投資	4,750	5,090	-
研究開発費	4,476	4,648	-
減価償却費	3,071	3,561	-
実質手許資金(自動車事業)	3,729	2,547	-

2006年度 為替レート ￥117.0/\$
￥148.2/€

●2006年度 販売状況(千台)



※1: 営業日調整済み
※2: メキシコ、カナダを含む